

夫が
キライ
です！

悩めるあなた、丸ごと受け止めます！

志茂田景樹の 連載第2回

あたためるゴトパ

Twitterでの人生相談が大反響の志茂田景樹先生が、読者のお悩みに答えます！



彼の「なんで？根拠は？」 攻撃に傷ついています

M・Nさん (39歳)

夫は私が何かひとこと言うと、すぐ「はあ？なんで？何のために？」と質問攻め。だけど私は具体的に答えるのが苦手。毎回「理解不能！」とバツサリ切り捨てられ、ずっと傷ついています。そんな出来事を書いていた日記も、もう忘れたくて捨てました。

夫は理論型、あなたは直感型。そのズレによるすれ違いですね。理論型の人って、理屈で納得せざるにいられないものなの。だから「なんで」を繰り返すだけで、決してあなたを下に見ているわけではなくとも思います。だから、傷つかなくてもいいんです。それを心得たうえで、ズレを埋

夫を「知る」ために 日記を再開しよう

「3回に1回は夫に合わせる」作戦を
自慢がクセになってきている人なのですね。でも実は、こういう人こそ単純で扱いやすいのですよ。

つまりは、謙虚な顔をしつつ、うまく夫を利用するのです。このように戦略的に行動できたとき、あなたは「奴隷」ではなく、「夫を賢くコントロールする妻」になります。

私のすべてをバカにする夫。 奴隷のような人生です

N・Fさん (42歳)

夫は「何事も自分が一番」な人。自分の地元以外はどこも「ダメな場所」で、私のこともバカにします。家事もできないとか、私の内職をくだらない仕事だとか。なのに「母親は家にいるべき」と、外に働きに出るのも許してくれません。私は、まるで夫の奴隷です。

試しに、自慢話の3回に1回は同調してみよう。「まだマシ」と思える内容のものに「本当ね、あなたすごいわ！」と言ってみるのです。「そんなのイヤ」と思われるかもしれないですが、これは妥協ではなく「作戦」です。彼は、謙虚が好物ですから、きつと気を良くします。同時に、それが「3回に1回」なら、彼自身も何がOKなのかを学ぶでしょう。結果、ヒドいことを言う回数が減っていくはずですよ。

夫が働こうとしない。 家計がピンチです

S・Uさん (49歳)

50歳の夫は1年前に早期退職。在職中は激務のストレスで体を壊し、それでも残業代も出ずに、夜中に号泣していたことも。だから退職には賛成したのですが、1年経った今、とても不安。夫は自信を失い、再就職する気配がないのです。家計も苦しくなっています。

「心のリハビリ期間」を 温かく受け入れて

きつと、疲れ果てていらしたんですね。今動けないのは、決して怠け者だからではなく、責任感が

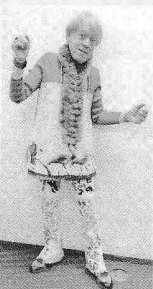
める工夫として、あなたも少し理論型になってみてはどうでしょうか。決して難しくはありません。日記を再開させるだけでOK。今回は、「夫を知ろう」と思いながら書いてみてください。すると、「こう言えばこう返ってくる」といった法則性が見えてきます。そこから、「あの人、こう思ってたのね」という発見も得られるでしょう。それは、今後の夫婦の関係を、きつと良い方向へ変えてくれますよ。

Profile 1940年静岡県生まれ。様々な職業を経て76年に小説家デビュー、80年に直木賞受賞。執筆の傍らテレビでも活躍。不登校児の支援など、社会的活動にも携わっている。

今月の

KAGEKI FASHION

1998年から行っている「読み聞かせ」。長野でのイベントには、鮮やかなグリーンが映えるコーデで。



カゲキ先生に相談したいお悩みはこちらへ！

【①氏名②掲載希望③年齢④住所⑤電話番号⑥メールアドレス⑦お悩みの内容】を記載のうえ、下記の宛先までメールまたは郵便でお寄せください（電話またはメールで、お悩みに関する質問をさせていただくことがあります）。掲載された方には図書カード¥2,000分をプレゼントします。

【宛先】●メール kageki@karakoto.com ●住所 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-44-2 神田TNKビル5F からだにいいこと編集部「あたためるゴトパ」係

強すぎるため。「しつかりやらなければ」と思うあまりに、「あの頃と同じように働くんなんて無理」と思ってしまうのでしょうか。彼には今、「心のリハビリ」が必要なんです。だからあなたは、気楽にしてあげることが大切。「前と同じように、バリバリ働かなくていい」とまずは伝えて。そしてアルバイトなど、小さな第一歩を勧めてみましょう。少しずつ、自信を回復していくはずですよ。